資 料 編

# キャリア教育に関する調査

群 馬 県 総 合 教 育 セ ン タ ー
キャリア教育の充実に関する研究チーム

| | |
|---|---|
| 学　校　名 | 立　　学校 |
| 記載者氏名 | |

＜回答上の注意＞
※　設問ごとに、回答数や回答法が異なりますので、ご注意ください。
※　自由記述については字数の制限はありません。適宜、枠を広げてご記入ください。

## 以下のⅠ～Ⅴについて、ご回答ください。

### Ⅰ　学校におけるキャリア教育の取組について、以下の設問にお答えください。

（１）以下のア～テの活動について、貴校で実施している取組をすべて選び、回答欄の該当箇所に○印を記入してください。取組がない場合には「ト　実施していない」を選び、回答欄の「ト」に○印を記入してください。

ア　企業・事業所・研究所・施設等の見学
イ　職場体験学習やインターンシップ
ウ　地域貢献活動やボランティア活動
エ　職業調べ（職業研究）
オ　社会人講師（社会人・職業人）の講話・講演
カ　卒業生による講話
キ　社会人・職業人へのインタビュー
ク　上級学校調べ（上級学校研究）
ケ　上級学校訪問、体験入学やオープンキャンパスへの参加
コ　上級学校による出前授業
サ　キャリアカウンセラー*1の活用
シ　キャリアアドバイザー*2の活用
ス　ジョブサポーター*3の活用
セ　起業家教育*4
ソ　自己理解の学習
タ　職業適性検査
チ　キャリアガイダンス
ツ　進路に関わる体験や調査研究の発表会
テ　マナー（ビジネスマナーを含む）教育
ト　実施していない

＜用語解説＞

*1　キャリアカウンセラー
就職や進学、資格取得などに関する様々な悩みや課題を解決するために個別の相談サポートを行う人。個別に相談するキャリアカウンセリングは、専門的な知識や技術が必要とされる。

*2　キャリアアドバイザー
豊富な社会経験・企業経験や専門知識をもとに、仕事の状況・生活環境を加味した上で、アドバイスをしていく相談員のこと。キャリア形成の方法について専門的な知識・情報を有する人をキャリアアドバイザーとして学校に招き、講演や懇談会などを実施することも提案されている。

*3　ジョブサポーター
若者の職業的自立を支援する取組を行うことを目的に登録された、事業所、ＮＰＯ、企業などのこと。

*4　起業家教育
企業家精神やビジネスの仕組み、コミュニケーションプロセス、情報感覚、道徳観などを養うことを目的として行われる教育。会社設立から経営までのシミュレーションなどを行う。

回答欄

| ア | イ | ウ | エ | オ | カ | キ | ク | ケ | コ | サ | シ | ス | セ | ソ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | | | | | |
| タ | チ | ツ | テ | | | | | | | | | | | ト |
| | | | | | | | | | | | | | | |

# 「キャリア教育に関する調査」の集計結果

群 馬 県 総 合 教 育 セ ン タ ー
キャリア教育の充実に関する研究チーム

■実施時期：平成18年７月10日～31日（中 学 校）
　　平成18年７月10日～24日（高等学校）
■調査対象：県内の全公立中学校175校の第３学年主任
　　県内の全公立高等学校（特別支援学校、通信制を除く）93校の進路指導主事
■回 収 率：100%

## Ⅰ　キャリア教育にかかわる取組の実施状況について

## Ⅱ　キャリア教育で生徒に身に付けさせたい能力について

■中学校

■高等学校

※「実施している取組で身に付く能力」の数値は、設問Ⅰの取組から算出

## Ⅲ　キャリア教育充実のための条件整備について
（※キャリア教育の充実に必要な条件の優先度及び満足度）

### （１）キャリア教育を推進するための学校内の組織、体制づくり

■中学校

優先度

満足度

■高等学校

優先度

満足度

### （２）教員の資質向上と専門的能力を有する教員の養成

■中学校

優先度

満足度

■高等学校

優先度

満足度

## （3）学校外の教育資源活用にかかるシステムづくり

■中学校

優先度

満足度

■高等学校

優先度

満足度

## （4）保護者との連携の推進

■中学校

優先度

満足度

■高等学校

優先度

満足度

## （5）関係機関等の連携と社会全体の理解の促進

■中学校

優先度

満足度

■高等学校

優先度

満足度

# Ⅳ　キャリア教育に関する考え（意識）について

■中学校

■高等学校

キャリア教育についての考え
100%
80%
60%
40%
20%
0%
学校におけるキャリア教育は全教育活動を通じて実施すべきである
1.1
4.3
23.7
71.0
これまでの進路指導や職業教育とキャリア教育は同じものである
7.5
46.2
41.9
4.3
キャリア教育により、生徒の適性や希望に合致した望ましい進路指導が実現できる
1.1
16.1
68.8
14.0
「キャリア」という概念を説明できる
5.4
14.0
61.3
19.4
現在の社会状況、産業構造や雇用環境の変化を説明できる
3.2
12.9
65.6
18.3
生徒が希望する職業の内容を説明できる
2.2
12.9
74.2
10.8
学校・家庭・地域社会のそれぞれが役割を担って協力して推進すべきである
0.0
24.7
74.2
キャリア教育において、学校や教員の果たすべき役割は大きい
1.1
5.4
49.5
44.1
キャリア教育に関しては不安感より期待感の方が大きい
3.2
23.7
55.9
17.2
まったくその通りである
どちらかといえばその通りである
どちらかといえばそうではない
まったくそうではない

# Ⅴ　キャリア教育充実のために必要な教員の研修について

（２）貴校において上記以外の取組がある場合には、具体的な取組を簡潔にお答えください。

| 回答欄 | |
|---|---|

Ⅱ　以下の項目ア～タについて、貴校の生徒に特に身に付けてほしい能力や態度を４つ選び、回答欄の該当箇所に〇印を記入してください。

ア　自分の長所と短所を個性として認識し、自分の得意なことを伸ばそうとする
イ　他人の考え方や個性を理解し、自分との違いを受容する
ウ　異年齢の人や異性等、多様な他者と場に応じた適切なコミュニケーションを図る
エ　リーダーシップ・フォロアーシップを発揮し、意欲的に学校行事や生徒会活動に参加する
オ　生き方や進路についての情報を様々な手段で集め、検討・活用する
カ　必要に応じて収集した情報に創意・工夫を加え、提示・発表・発信する
キ　様々な体験を通し、学校で学ぶことと職業を関連づけて考え、職業や勤労への理解や認識を深める
ク　社会規範やマナー、モラルの大切さを体験を通して理解し、身に付ける
ケ　学校や家庭で自分が果たすべき役割を自覚し、年齢に応じた社会的役割や責任を理解する
コ　卒業後の進路希望に基づいて、今取り組むべき学習や活動を理解する
サ　自分の目標に向けて、計画を立て、実行する
シ　自己の適性に合った進路を現実的に考える
ス　多様な選択肢の中から、自分の意志と責任で当面の進路や学習を選択する
セ　進路や学習の選択の基準となる自分なりの価値観をもち、選択結果を責任をもって受け入れる
ソ　進路希望の実現を目指して、自ら課題を設定し、その解決に取り組む
タ　理想と現実との違いを理解し、失敗してもあきらめずに困難を克服しようとする

| 回答欄 | ア | イ | ウ | エ | オ | カ | キ | ク | ケ | コ | サ | シ | ス | セ | ソ | タ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | | | | | | | |

Ⅲ　キャリア教育の充実を図るために必要とされる以下の条件ア～オについて、貴校における必要度の高いものから順に１から５までの番号を付け、回答欄の該当箇所に記入してください。
また、それらの条件の貴校における整備の状況について
「たいへん満足している」場合にはＡ、
「ほぼ満足している」場合にはＢ、
「少し不満を感じている」場合にはＣ、
「たいへん不満を感じている」場合にはＤ、
を合わせて記入してください。

ア　キャリア教育を推進するための学校内の組織、体制づくり
（例：キャリア教育推進委員会の組織　など）
イ　教員の資質向上と専門的能力を有する教員の養成
（例：すべての教員によるキャリア教育の本質的理解の共有、キャリアカウンセリングを担当する教員の養成、キャリア教育に関する校内研修の計画的な実施、キャリア教育の視点に立ったカリキュラム開発能力の向上、地域社会等とのコーディネート能力向上研修　など）
ウ　学校外の教育資源活用にかかわるシステムづくり
（例：職場体験やインターンシップの受入事業所の確保と地域におけるシステムづくり、幅広い層からのキャリアアドバイザーの確保・活用　など）
エ　保護者との連携の推進
（例：学校から保護者への積極的な働きかけ、家庭の役割についての自覚、保護者の学校教育への積極的な参画　など）
オ　関係機関等との連携と社会全体の理解の促進
（例：ハローワーク等との緊密な連携、大学・専門学校等との連携、経済団体による企業等への働きかけ　など）

回答欄

| | ア | イ | ウ | エ | オ |
|---|---|---|---|---|---|
| 必要度順位 | | | | | |
| 整備の状況 | | | | | |

## Ⅳ　以下の設問にお答えください。

（１）キャリア教育についてどのような考えをお持ちですか。以下の項目ア～ケについて
「まったくその通りである」と思う場合には１、
「どちらかといえばその通りである」と思う場合には２、
「どちらかといえばそうではない」と思う場合には３、
「まったくそうではない」と思う場合には４、
を回答欄の該当箇所に記入してください。

ア　学校におけるキャリア教育は、全教育活動を通じて実施すべきである
イ　これまでの進路指導や職業教育とキャリア教育は同じものである
ウ　キャリア教育により、生徒の適性や希望に合致した望ましい進路指導が実現できる
エ　「キャリア」という概念を説明できる
オ　現在の社会状況、産業構造や雇用環境の変化を説明できる
カ　生徒が希望する職業の内容を説明できる
キ　学校・家庭・地域社会のそれぞれが役割を担って協力して推進するべきである
ク　キャリア教育において、学校や教員の果たすべき役割は大きい
ケ　キャリア教育に対しては、不安感より期待感の方が大きい

回答欄

| ア | イ | ウ | エ | オ | カ | キ | ク | ケ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | |

（２）貴校におけるキャリア教育のねらい（目的）はどのようなものですか。簡潔にお答えください。

回答欄

（３）その他、キャリア教育について率直な考えをお書きください。

回答欄

## Ⅴ　キャリア教育を充実させていくための教員の研修について、以下の設問にお答えください。

（１）以下の研修ア～ツの中で、「必要だと思う」ものについて、回答欄の該当箇所に○印を記入してください。

ア　キャリア教育先進校の視察
イ　上級学校の視察
ウ　ハローワークやジョブカフェ*の視察
エ　企業や研究所の視察
オ　キャリアアドバイザーやキャリアカウンセラーの講義や講演
カ　企業人の講義や講演
キ　上級学校職員の講義や講演
ク　基本的なキャリアカウンセリング実施のための研修
ケ　キャリア教育で育成する能力や態度を示した学習プログラム開発のための研修
コ　校内でキャリア教育推進の中核的役割を担う教員の育成のための研修
サ　地域社会や関係機関等とのコーディネート能力を身に付けるための研修
シ　校内においてキャリア教育を推進する組織体制確立のための研修
ス　教員が多くの職業を知るための研修
セ　学校外の資源（関係機関、企業、上級学校など）を有効活用するためのシステムづくりにかかわる研修
ソ　これまでの進路指導を再構築するための研修
タ　早期離職対策や進路未決定者への指導にかかわる研修
チ　キャリア教育に関する各取組後の評価の在り方にかかわる研修
ツ　起業家教育にかかわる研修

＜用語解説＞
* ジョブカフェ
都道府県が事業主体となって、学生や若年失業者などに対して職業紹介をしたり、現場体験などのプログラムを提供している施設。平成17年９月現在、全国に95カ所設置されている。

回答欄

| ア | イ | ウ | エ | オ | カ | キ | ク | ケ | コ | サ | シ | ス | セ | ソ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | | | | | |

| タ | チ | ツ |
|---|---|---|
| | | |

（２）上記以外に必要な研修があれば、簡潔にお答えください。

回答欄

（３）「研修は必要ではない」とお考えの方はその理由を簡潔にお答えください。

回答欄

以上でアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

# キャリア教育に関する調査　調査項目ごとの調査結果の分析及び考察

(1)　キャリア教育にかかわる取組の実施状況について

| | 中　学　校 | 高 等 学 校 |
|---|---|---|
| 調査結果 | ◆高い実施率の取組<br>**職業調べ（98%）**<br>**上級学校調べ（97%）**<br>**職場体験学習（97%）**<br>**地域貢献・ボランティア活動（82%）**<br>◆低い実施率の取組<br>キャリアカウンセラーの活用（１%）<br>起業家教育（１%）<br>ジョブサポーターの活用（２%）<br>キャリアアドバイザーの活用（２%） | ◆高い実施率の取組<br>上級学校訪問(体験入学等)（88%）<br>社会人講師講話（84%）<br>上級学校調べ（82%）<br>◆低い実施率の取組<br>起業家教育（８%）<br>**キャリアカウンセラーの活用（13%）**<br>社会人・職業人へのインタビュー（17%） |
| 分析・考察 | キャリア教育にかかわる取組は、すべての学校で行われている。<br>体験活動はほぼ100%実施されているが、事後の発表会等の実施率は43%である。事前・事後を含めた体験活動等の内容の充実が必要である。 | 実施率は低いが、課程（全日制・定時制等）や学科（普通・専門・総合等）に関係なく実践できるものとして、「キャリアカウンセラーの活用」が考えられる。 |

(2)　キャリア教育で生徒に身に付けさせたい能力について

「児童生徒に勤労観や職業観を育む学習プログラムの枠組み(例)」(国立教育政策研究所生徒　指導研究センター　平成14年11月）に、キャリア教育で生徒に身に付けさせたい能力として、以下の４領域８能力が示された。この８能力が具現化した態度を、枠組みを参考に、それぞれ２つずつ選択肢として設定し、身に付けさせたい能力を調査した。また、(1)で各学校が選択した取組のそれぞれについて、８能力のうち主にどの能力の育成が期待できるかの判断を加えたうえ上で振り分け、実施している取組と身に付けさせたい能力についての関係を明らかにした。

| 領域 | 人間関係形成能力 | 情報活用能力 | 将来設計能力 | 意思決定能力 |
|---|---|---|---|---|
| 能力 | 自他の理解能力<br>コミュニケーション能力 | 情報収集・探索能力<br>職業理解能力 | 役割把握・認識能力<br>計画実行能力 | 選択能力<br>課題解決能力 |

| | 中　学　校 | 高 等 学 校 |
|---|---|---|
| 調査結果 | 特に生徒に身に付けさせたいと考える能力のうち、以下の４能力を育成する取組が少ない。<br>○コミュニケーション能力　○役割把握・認識能力　○計画実行能力　○課題解決能力 | |
| 分析・考察 | 特に以下の能力の向上を意識した取組が必要である。<br>○コミュニケーション能力<br>○役割把握・認識能力<br>○計画実行能力 | 特に以下の能力の向上を意識した取組が必要である。<br>○コミュニケーション能力<br>○課題解決能力 |

キャリア教育の目標は、『勤労観、職業観を育成し主体的に選択決定する能力を育成する』であり、意思決定能力の育成を目指していることから、人間関係形成能力が基盤になり、将来設計、情報活用の両能力が育成され、意思決定能力につながるとの構造が考えられる。
（三村隆男『進路指導2006年５月号　小学校キャリア教育入門(２)』）

(3)　キャリア教育充実のための条件整備について

※　以下の①～⑤の条件は、「キャリア教育の推進に向けて」（文部科学省　H.17.5）から引用した。

**中　学　校**

| 条　件 | 優先度順位 | 満足度順位 |
|---|---|---|
| ①キャリア教育を推進するための学校内の組織、体制づくり | **1** | **3** |
| ②教員の資質向上と専門的能力を有する教員の養成 | **2** | **4** |
| ③学校外の教育資源活用にかかるシステムづくり | 3 | 2 |
| ④保護者との連携の推進 | 4 | 1 |
| ⑤関係各機関等の連携と社会全体の理解の促進 | 5 | 5 |

**分析・考察**

**キャリア教育を推進する、校内組織や体制が必要である。**

⇩

**教職員の共通理解の上に、キャリア教育の取組が必要である。**

**高等学校**

| 条　件 | 優先度順位 | 満足度順位 |
|---|---|---|
| ①キャリア教育を推進するための学校内の組織、体制づくり | **2** | **4** |
| ②教員の資質向上と専門的能力を有する教員の養成 | **1** | **5** |
| ③学校外の教育資源活用にかかるシステムづくり | 5 | 2 |
| ④保護者との連携の推進 | 3 | 3 |
| ⑤関係各機関等の連携と社会全体の理解の促進 | 4 | 1 |

**分析・考察**

**キャリア教育に関する教員の資質を高め、専門的な指導力を向上させる必要がある。**

⇩

**多様な進路選択に対応するために、教員の指導力の向上が必要である。**

(4)　キャリア教育に関する考え（意識）について

| | 中　学　校 | 高等学校 |
|---|---|---|
| 調査結果 | ◆これまでの進路指導や職業教育とキャリア教育は同じものである（60%）<br>◆キャリア教育に期待感よりも不安感を抱く（32%）<br>◆キャリア教育についての理解の不足、否定的な意見（29%、自由記述より判断） | ◆これまでの進路指導や職業教育とキャリア教育は同じものである（46%）<br>◆キャリア教育に期待感よりも不安感を抱く（27%）<br>◆キャリア教育に否定的な意見（35%、自由記述より判断） |
| 分析考察 | **キャリア教育に関する教員の意識の変容と、共通理解を促す取組が必要である。** | |

(5)　キャリア教育充実のために必要な教員の研修について

| | 中　学　校 | 高等学校 |
|---|---|---|
| 調査結果 | ◆キャリアアドバイザーやキャリアカウンセラーの講義や講演（61%）<br>◆ 先進校の視察（59%）<br>**◆ キャリア教育で育成する能力や態度を示した学習プログラム開発のための研修(50%)**<br>◆企業人の講義や講演（47%）<br>◆校内でキャリア教育推進の中核的役割を担う教員の育成のための研修（43%）<br>◆校内においてキャリア教育を推進する組織体制確立のための研修（41%） | **◆基本的なキャリアカウンセリング実施のための研修（70%）**<br>**◆キャリアアドバイザーやキャリアカウンセラーの講義や講演（67%）**<br>◆先進校の視察（65%）<br>◆校内でキャリア教育推進の中核的役割を担う教員の育成のための研修（62%） |
| 分析考察 | **キャリア教育学習プログラムの開発のための研修が必要である。** | **キャリアカウンセリングを用いた指導実践を実現するための研修が必要である。** |